

V-3-1 単元「西区再発見！みんなで考え、みんなで創る西区の未来！」（老松中学校 第1学年）

1 単元指導計画

1-1 単元名「西区再発見！みんなで考え、みんなで創る西区の未来！」（全13時間）
担当者 垣崎授二 武田美知子 佐藤 洋 鈴木真弓 山田孝之 久保儀晃

1-2 単元設定の理由

（1）生徒の実態

第1学年の生徒は、4月から「環境」というテーマのもと、わが町西区と自然教室の実施場所である新潟との比較学習を行って「環境」への関心を高めてきた。その学んだ成果を学年発表会で取り組む中で、発表形態を工夫するなど、少しずつ表現力が身についてきた。

9月には、実際に自然環境豊かな新潟での自然教室を体験し、生徒一人一人が得難い経験を積み重ねることができた。

しかし、自分の住む地域に対しての思いは十分に深まったとはいえない。

また、学習態度は、生徒の個人差があるが、全体的に受身がちであり、考えを深めたり根気強く取り組むことが苦手な生徒が多く、その解決のためのスキルが十分に身につけていないように思われる。

（2）教師の願い

今回、西区の未来を住民とともに考え創ることを推進している西区区役所の福祉保健課と連携し授業を協働することで、生徒たちが西区の未来を考え、将来、より良い地域づくりに貢献する実践的態度が身につくことにつながればとよいと考えた（「内容系列表」のテーマ「環境（まち、自然環境）」）。

また、自然教室で体験した内容を、アルバムづくりにじっくりとまとめていく取り組みを通して、情報収集、その処理及び表現の力を育てたいと考えて、今回の単元を設定した。

1-3 単元の目標

自然教室（新潟）のアルバムづくりを通して、環境への関心を高め、表現力を培うとともに、地域を良くしていくために自分たちのできることを考え、実践しようとする。

1-4 単元の評価規準

○ 関心・意欲・態度

①地域を良く変えたいという意識をもとうとする。

②自分から進んで、意欲的に活動に取り組もうとする。

○ 思考・判断

①友達のよいところ、学ぶところを進んで見つけることができる。

②今までの自分と関連させて地域の中での自分のあり方を考えることができる。

○ 技能・表現

①今までの学習の足跡をわかりやすく整理して表現することができる。

②グラフを正しく読み取ることができる。

○ 知識・理解

①地域の諸課題について理解を深める。

1-5 学習過程と評価計画 (全13時間)

学習活動	支援 (方法・内容)	評価基準				評価資料
		関意態	思判	技表	知理	
1 自然教室アルバムをつくる。 ①アルバム計画書を作成する。(2)	・今まで体験した内容を分かりやすく順序良く整理できるよう助言する。			①		アルバムの作成計画書
②アルバムをつくる。(7)	・今まで調べたり体験した内容を分かりやすく工夫したり順序良く整理できるよう助言する。 ・公正に評価ができるよう助言する。			①		アルバムの観察
2 アルバム相互評価をしよう。(1)			①			MMO21 シートの分析
3 西区再発見、みんなで考えみんなで創る西区の未来を考えよう。(3)						
①アルバム相互評価の結果を読み取る。	・アルバム作成の相互評価の結果グラフが読み取れるよう助言する。 ・先輩が生き生きと発表しているビデオを見せ、意欲が高まるよう支援する。			②		MMO21 シートの分析
②地域に生きる人たちの話を聞き、その考え方にふれる。		①				MMO21 シートの分析
③今までの活動を振り返り西区の標語を考える。	・こんな西区であったらとの自分の思いを重ねながら標語をつくるよう助言する。		②			MMO21 シートの分析
④ゲストティーチャー(西区区役所)の話を聞く。	・自分達が調べた西区の諸課題について理解できるよう助言する。 ・積極的に討議に参加できるよう助言する。				①	MMO21 シートの分析
⑤グループ討議をし、学習をまとめる。			②			MMO21 シートの分析

1-6 評価基準

学習活動	評価基準	学習活動における具体的な評価基準	評価資料	評価基準		
				A (3)	B (2)	C (1)
1 自然教室アルバムをつくる。	技能・表現①	今までの学習の内容を、わかりやすく整理することができる	アルバムの作成計画書(評価資料)	写真とコメント、見出しの3つの配列の	写真、コメントの2つの配列の工夫につ	写真の配列の工夫だけを計画書に書いて

①アルバム作成計画書をつくる。		できる。	1)	工夫について計画書に書いている。	いて計画書に書いている。	いる。
②アルバムを作成する。	技能・表現①	今までの学習の足跡を計画書に沿って表現することができる。	アルバム	写真、コメント、見出しの3つを各ページにまとめている。	写真、見出しの2つを、各ページにまとめている。	アルバムが未完成になっている。
2 アルバムの相互評価をする。	思考・判断①	友達のよいところ、学ぶところを進んで見つけることができる。	MMO21 シートの分析(評価資料2)	友達のよいところ、学ぶところを2つ以上書いている。	友達のよいところ、学ぶところを1つ書いている。	友達のよいところ、学ぶところを書いていない。
3 西区再発見、みんなで作る西区の未来を考えよう。 ①アルバムの相互評価結果を読み取る。	技能・表現②	グラフを正しく読み取ることができる。	MMO21 シード(評価資料3-1)	グラフから読み取れる内容(感想)を2つ以上正確に書いている。	グラフから読み取れる内容(感想)を1つ正確に書いている。	グラフから読み取れる内容(感想)を書いているが、読みが不正確である。
②地域に生きる人たちの話を聞き、その考え方にふれる。	関心・意欲①	地域を良く変えたという意識をもとうとする。	MMO21 シート(感想文)(評価資料3-2)	自分の意見を2つ以上書いている。	自分の意見を1つ書いている。	自分の意見が書けていない。
③今までの活動を振り返り西区の標語をつくる。	関心・意欲②	自分から進んで、意欲的に活動に取り組もうとする。	MMO21 シード(標語)評価資料3-3	西区の標語が3つすべて書けている。	西区の標語が1~2つ以内書けている。	西区の標語が1つも書けていない。
④西区役所の方の話を聞く。	知識・理解①	地域の諸課題について理解を深める。	MMO21 シート(評価資料4-1)	地域の諸課題について2つ以上書いている。	地域の諸課題について1つ書いている。	地域の諸課題について書けていない。
⑤グループ討議をし学習をまとめる。	思考・判断②	今までの自分と関連させて地域の中での自分のあり方を考えることができる。	MMO21 シート(評価資料4-2)	「今までの自分」と「今後の自分の生活」の2点について自分の考えを書いている。	「今までの自分」「今後の自分の生活」の2点のどちらかについて自分の考えを書いている。	「今までの自分」「今後の自分の生活」について書いているが、自分の考えがない。

2 授業と評価の実践

2-1 指導と評価の一体化の実践

学習活動1 自然教室アルバムを作る

① 自然教室のアルバム作成計画書をつくる

(1) 指導・学習の過程

「自然教室のアルバム」作成の活動の導入として最初にオリエンテーションを行った。オリエンテーションでは、「環境」というテーマのもとこれまでの学習を振り返った。そして、西区と自然教室の実施場所である新潟との比較調べ学習を行って「環境」への関心を高め、学年学習発表会を行ってきたこと、実際に自然環境豊かな新潟での自然教室を体験し、得難い経験を積み重ねることができたことを踏まえ、その体験や思ったこと考えたことを基にアルバムを作るという今回のねらいを確認し合った。

まず、アルバム作成のための「計画書」の作成に取り組むことから始めることにした。その時、先を見通しながら活動ができるようにと、時間数を合わせて提示した。また、作成した計画書の提出時のその計画書を評価し、その後、計画書の提出と引き替えに作成する「アルバム」を手渡すことにした。

生徒たちは、アルバム作成のために、まず計画書を作成するということは初めての経験だったので、とても新鮮な感じで行き組んでいた。

(2) 評価結果

アルバム作成計画書から評価した結果、以下のようなになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現①	今までの学習の内容をわかりやすく整理することができる。	79人	55人	1人

上の評価結果にあるように、過半数を超える生徒（72人）が今までの学習の足跡をわかりやすく整理して表現することができていた。

(3) 指導の改善と実施

今回、次の学習段階であるアルバム作成に入るためには、作成した計画書の評価をするということを事前に生徒に知らせておいたことが効果があったようである。

アルバム作成のための計画書の評価をするにあたって、生徒が持参したアルバム作成の計画書を前にして教師側が一人一人と言葉を交わしながら評価を行ったことも、非常に効果的であったように思われる。



中には、評価がAだと言われた何人もの生徒が、満面に笑顔を浮かべて作成用のアルバムをもらって次の学習に取り組む姿が大変印象的であった。

事前に評価基準を知らせておくことがいかに学習効果を上げるのかを実感できる結果であった。

評価Cの1人は普段から学習への取り組みが遅い生徒であり、個別に教師の助言を受けながら、次の学習に進んだ。

学習活動1 自然教室アルバムを作る

② 自然教室のアルバムを作成する

(1) 指導・学習の過程

この学習には、生徒の実態から全13時間のうち7時間を充てた。

自分だけのアルバムを作成することが初めてであったことから、かつて卒業生が作成した修学旅行のアルバムを、何人か連絡をとって自宅から持ってきてもらい、生徒に見本として紹介した。このことで、イメージが膨らみ、作成が進んだように思う。

また、アルバム作成の基本的なルールとして、以下のことを事前に伝え、限られた時間内でどれだけ工夫し、世界で一つしかない自分だけのアルバムを作成できるかが最大のポイントであることを伝えた。

【アルバム作成の基本的ルール】

- ・写真はすべて、そのまま使うこと。(切ったり上から貼ったり書き込んだりしない)
- ・すべて手づくりで仕上げること。(写真のコメントは、独自の紙を用意すること)
- ・班でとった写真以外の使用も可とすること。(写真だけのアルバムは不相当とする)
(*班で一つカメラを事前に持たせ、自然教室中のメンバーの様子を撮らせておいた。)
- ・写真以外の学習資料(パンフ類)、しおりの使用も可とすること。(班で相談)
- ・アルバムの台紙すべてを使うことがベストであること。(両面10枚)



- ・最終ページには、「西区再発見、自然教室の思い出アルバムをつくろう」の学習タイトルにふさわしい感想を必ず載せること。
- ・はさみ、のり、筆記用具、画用紙類は各自で用意すること。

(2) 評価結果

作成されたアルバムを評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現①	今までの学習の足跡を計画書に沿って表現することができる。	63人	49人	23人

(3) 指導の改善と実態

予想する以上に、各自が工夫しながらアルバム作成に取り組んでいた。その様子を学年通信で紹介しながら、他の生徒の意欲が高まるようにもした。

なお、提出日に完成しなかった評価Cの23人の生徒に対しては、放課後、教師側の助言を受けながらアルバムを完成させていった。これらの生徒はアルバムの作成構想に時間をかけすぎてしまい、完成まで具体的な作業の時間が足りなかったようである。

学習活動2 アルバムの相互評価をする

(1) 指導・学習の過程

各クラスで、総合評価カードを使って、お互いのアルバムを鑑賞し合う品評会を行った。A・B・Cの3段階とし、総合評価カードに一人一人の生徒へのコメントを書くなど、最後まで、緊張感を保って、真剣に評価し合っていた。



(2) 評価結果

MMO21 シートから評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・判断①	友達のよいところ、学ぶところを進んで見つけることができる。	121人	14人	0人

自己評価と相互評価をすることで、生徒たちは他の生徒たちや自分自身のアイデアや工夫したところのよさに気づき、自信と喜びを実感することができたようであり、十分な学習効果があったと考える。

また、未完成なままアルバムが評価されることになった生徒も、次回このような機会があればもっと見通しをもってしっかりと取り組みたいと反省をしていた。

学習活動 3 西区再発見、みんなで考えみんなで創る西区の未来を考えよう
① アルバム相互評価の結果を読み取る

(1) 指導・学習の過程

前回で使用した相互評価カードの感想欄に書かれた内容を分析して一つのグラフとしてまとめたものを紹介した。このグラフから読みとることで今回のアルバム作成がどうだったのかをあらためて振りかえさせ、学習意欲を高めようと考えた。この時、前回でアルバムの相互評価をしたあとの感想を十数名分紹介し、学年全体の意欲を高めた。

(2) 評価結果

MMO21 シートから評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価基準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現②	グラフを正しく読み取ることができる。	110人	24人	1人

自分達たちの行った相互評価結果が、一つのグラフになったことに新鮮さを感じたようである。

全員が、課題意識をもって次の活動に進むことができた。評価Cの生徒には、グラフの読み取りについて教師が助言して次の活動につながるようにした。

学習活動 3 西区再発見、みんなで考えみんなで創る西区の未来を考えよう
② 地域に生きる人たちの話を聞き、その考え方にふれる

(1) 指導・学習の過程

「環境」のテーマのねらいの一つである「地域に対する愛着心の育成」を育むことを考えるにあたって、身近な存在である同じ中学校の3年生がどのように考えているのか意見を聞かせた。

その時に使った資料は、西区役所保健健康課が主催した「みんなで考え、みんなで創る西区の未来」（西区地域福祉保健計画講演会 H.15.12.11）で中学生代表として参加した二人（男1、女1）のそのときの模様をビデオで収めたものであった。内容は「住み続けたいまち・・・西区」と題して、実体験をまじえて、考えを発表したものであった。

(2) 評価結果

MMO21 シートから評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・ 態度①	地域を良く変えたいという意識をもと うとする。	101人	32人	2人

自分の身近な中学3年生の発表しているビデオということもあり、大変興味深く鑑賞していた。意見の内容の深さからも、年齢が少し違うだけで、これほど考え方が深まるのかと現在の自分自身と照らし合わせて、驚きを隠せなかった生徒が何人もいた。評価結果は、表のように、101人が評価A、評価Bは32人であり、ほとんどの生徒が地域を良く変える必要を感じていた。

学習活動3 西区再発見、みんなで考えみんなで創る西区の未来を考えよう
③今までの活動を振り返り西区の標語をつくる

(1) 指導・学習の過程

西区の標語をつくるにあたって、もう一度今回の単元のねらいを確認した。そして、二人の生徒の放送内容と新潟との比較から西区の標語を考えるために、自然教室アルバムからの作文を紹介した。

新潟県東頸城郡での自然教室では、見渡す限り続く緑の山々、道を行くと田んぼが点在するという横浜では見ることができない風景をたくさん見ることができました。稲刈りでは、とても素晴らしい体験ができました。刈り方はすぐに慣れましたが、稲の束ね方が難しくなかなか覚えることができませんでした。しかし、農家の方に教えていただいたり、自分でも何度かしているうちに覚えることができました。

田舎の夜が、あんなに暗いものとは思いませんでした。外灯が一つもないのです。横浜ではまずそんなことはありません。今年は、天候に恵まれなかったものの大成功をおさめました。これも宿の方、地域の方々のおかげだと思います。

(2) 評価結果

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・ 態度②	自分から進んで、意欲的に活動に取り組もうとする。	101人	32人	2人

(3) 指導の改善と実態

西区と新潟の比較をした作文を紹介したことが、ねらいを明確にし、西区の標語を作るよう促したことが効果をあげた。よく書けている生徒の作文は、他の生徒の参考になる。

また、今回、生徒が作成した標語を、区役所に届けることを伝えておいたことも、全員の意欲を高めたと考えられる。評価Cの2人の生徒は、深く考えすぎていたようで、時間内で終わらなかったようである。



放課後、生徒が作成した「西区の標語」をすべて区役所に届けた。区役所側では、中学生が作成した標語として大変貴重な意見であるとして、大いに今後の参考にしたいとの話をいただいた。

この時の話を翌日の学年集会で生徒に話し、次の活動意欲につながるようにした。

学習活動3 西区再発見、みんなで考えみんなで創る西区の未来を考えよう

④ 西区区役所の方の話を聞く

(1) 指導・学習の過程

西区役所の健康福祉課の方を招いて、西区の地域福祉保健計画についての話を聞いた。テレビ放送を使用して、各クラス同時展開で授業を展開した。

今まで、グループインタビュー（西区民473人）からの区民の声をつなぎ合わせ、地域福祉保健計画（案）を作成してきていること、途中段階ではあるがそこから見えてきた地域の諸課題についてわかりやすく説明がなされた。

以下、区役所側が用意して生徒用に配布された資料の抜粋を参考までに載せておく。

★ 基本目標 - 西区のめざす姿 -

6つの目標

- ①安全が確保され、安心なまち
- ②活気にあふれ、健康なまち
- ③一人一人の個性を認め合い、みんなが共存するまち
- ④地域全体がつながりをもつまち
- ⑤子どもが健やかに成長できるまち
- ⑥必要な情報が正確に伝わるまち

西区の良いところ・困るところ

西区の良いところ

西区の悪いところ

交通機関が多く便利である。
買物などに便利である。
近所の人々が声をかけてくれ、気軽に安心して暮らせる。
図書館などの施設が身近に多い。
若い人からみんな、地域の人が暖かい。
区内に繁華街、山、緑がある。
子どもから高齢者まで、交流が活発である。
顔見知りが多く話しやすい。

道や歩道が狭く歩きにくい。
狭い道に大型車が激しく通る
自然環境が少ない。
公園が少ない。
階段や坂が多くて、生活しにくい。
行事への若い人の参加がない。
ごみ出しのマナーが悪い。
違法駐車などのルール違反が多い。(西口)

(2) 評価結果

西区役所の方々の話を聞きながら書いた「MMO21シート」の記述から評価した結果、以下ようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価基準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
知識・理解①	地域の諸課題についての理解を深める。	100人	35人	0人

生徒に向けた話をさせていただく内容について、区役所側と事前によく打ち合わせをしたためもあって、資料が用意され、内容も大変精選されていた。

区役所の方からの話の中で、西区のめざす姿が紹介され、自分達の知らないところで、西区の未来について真剣に考え取り組むが進んでいることに驚き、区役所の方の真剣な姿に促されて、自分達も何かをしなければという意識が一層高まっていったように思われる。全員が評価B以上（評価Aは100人、Bは35人）であった。

(3) 指導の改善と実施

また、一通り話を聞いた後、区役所側から、ぜひ中学生の意識調査をしたいということで、以下のアンケート調査（3項目）を実施した。

問1

あなたは近所の人からあいさつなど、声をかけられることがありますか。

- ①よくある ②ときどきある ③あまりない ④まったくない

問2

あなたは近所の人に「危ないよ。」「〇〇はやめなさい」など、注意をされたことがありますか。

- ①よくある ②ときどきある ③あまりない ④まったくない

問3

あなたは、周りの大人たちから大切にされていると感じますか。

- ①感じる ②感じない ③わからない

このアンケートを実施することも、その後の学習の展開に意識がさらに高まったと考えられる。

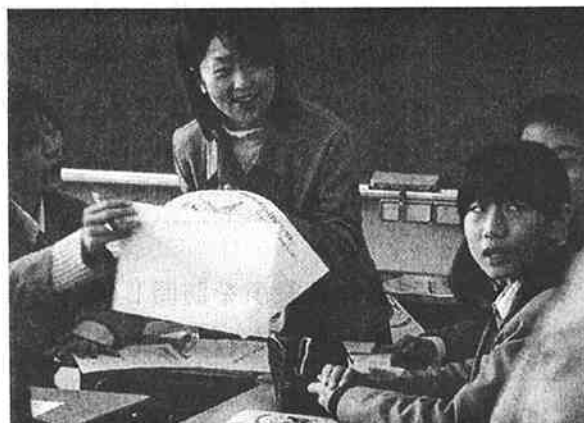
なおこのアンケート結果は区役所側で活用されることとなった。

学習活動3 西区再発見、みんなで考えみんなで創る西区の未来を考えよう

⑤ グループ討議をし、学習をまとめる

(1) 指導・学習の過程

各クラスに一人ずつ（計4人）、区役所の方が授業者として入ってくださり、「西区の未来」について意見を出し合うグループ討議を行った。各クラス6班で班長が進行役となり、区役所で事前に用意していただいたポストイットを使ってのグループ討議となった。区役所の方にグループ討議がスムーズに進むよう助言していただいた。



(2) 評価結果

グループ討議後の「MMO21シート」の感想から評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価基準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・判断②	今までの自分と関連させて、地域の中でのあり方を考えることができる。	99人	35人	1人

この結果をみると、全員の生徒が、今までの自分と関連させて地域の中で自分のあり方を考えることができた。

具体的には、知識の上で学んだだけでなく、挨拶を積極的にしていこうとか、ゴミ拾いをしていこうなどの行動をおこそうと考えている生徒が多かった。また、今回の単元を通して、地域の実態を知ることから、福祉の大切さを述べている生徒も多かった。

(3) 指導の改善と実施

ちなみに、授業後の生徒の感想のいくつかを紹介すると、次のようであった。

- ・今日の授業で、みんながどんな西区にしたいのかが少しわかったように思う。自分でもこれからの西区にどうなってもらいたいかを考えられたし、自分が何をできるかを考えることができた。
- ・自分の住んでいる西区で、こんな話し合いがされているんだなと思った。西区はいろんな人から大切にされているんだな。これからは、夢のあるまちになってほしい。区民同士で協力したり、助け合ったりして、もっといいまちになってほしいと思った。西区っていいまちだな！
- ・西区は、高齢者がとても多い町だから、地域の方々との交流をたくさんもって、みんなが知り合いのような仲の良い区をめざしていきたいです。今回、そういう西区のことについて、班で深く考えられたから、今までより、自分が住んでいるまちへに関心を深めることができました。
- ・今日の授業を通して、中学1年の考えていることを知ってもらえたらいいと思った。みんなの意見が採用されたらいいと思いました。
- ・今の西区の良いところ悪いところをあらためて考え、みんなの意見を聞いてみると、自分が今まで見えていなかった良いところ悪いところが見えるようになりました。今の自分が西区でできることをしっかりとやっていきたいです。

なお、放課後、区役所を訪問して、区役所の方々に授業をやってみての感想を聞いてみると、次のような話をいただいた。

- ・地域に対する意識が非常に高まっているのを実感した。
- ・学年一人ぐらいは、「こんなものするのはいやだ」とかいう生徒がいると予想していたが、そんなことはなく、全員が、前向きに取り組んでいるのが、大変に印象的だった。
- ・「よさ」には、「よさ」と「悪さ」の両面があることに気がついている生徒が何人もいたのには驚かされた。区役所側としては、ぜひ認識してほしい視点の一つだったので。
- ・グループ内で討議がスムーズに展開しない班も中にはあって心配したが、授業後の感想欄を読む限り、全員が自分の考えを記述しているのには驚くとともに、生徒の思考の健全な発達を見る思いがして、とても安心した。

2-2 自己学習力の向上に向けた評価の工夫

(1) 相互評価の活用

学習活動2では、相互評価を主体とした活動を取り入れた。生徒に評価の観点や評価基準を強く意識させたことが、学習の実現状況に応じて柔軟に対応する効果的な指導ができ、その後の自己学習力の向上に成果があったと考える。

また、今まで、アルバム作成のための個別学習の時間が続いていたが、この活動で一人ひとりが工夫しながら頑張っている姿もみえた。生徒自身今回の活動が学級全体、学年全体でなりたっていることにも気づくことができたように思う。その結果、学習意欲も高めることができた。

<相互評価後の感想>

- ・みんな工夫していて良かった。みんなの思いが伝わってきた。評価することがこんなに楽しいとは思わなかった。
- ・みんな私よりすごくうまくてびっくりした。みんなのをお手本にしてこれから生かしていきたいです。
- ・みんなこっぴいて細かくてよかった。人の見て評価するのもいいなと思った。人それぞれ出来は違うけどみんなそれぞれいいところがあった。
- ・アルバムはやっぱり人の個性がでるんだなあとと思った。写真や資料の貼り方も違うし、工夫の仕方も違うから、やっぱりアルバムは見ていて楽しかった。
- ・みんな良い作品ばかりで、もっと長い時間見てみたいと思った。
- ・みんなすごくうまくてできている！細かいところまでやっていてびっくりしたり、楽しい写真があったりと、友達に私の思いつかなかったことや、見逃した点をついていてすごいと思った。
- ・自分のアルバムよりみんなのアルバムの方がとても個性があって、見たら思い出がいっぱいあるのがとても自分に感じました。みんなすごいアルバムを作ってすごいと思います。

(2) その他の工夫

- ・毎回の授業後、自己評価を必ずさせて評価を強く意識させた。
自己評価を積み重ねることで、軌道修正をしながら次の活動へ進むことができた。
- ・他の生徒がどのように取り組んでいるのか、書いた感想の文を教師が読み上げたり、週1回発行している学年通信で写真等で紹介したり、学習意欲が向上するよう促した。
- ・保護者に対しては、学年通信（週1回発行）、公開授業、学級懇談会により学習活動の実際の様子や学びの成果を返してきた。そのことが、生徒の学びを高めていくことになった。
- ・学習活動3では、西区役所保健福祉課の方々と連携しながら、授業を組み立てていった。行政の人たちが参画することで、授業で行ったことが、学校内で終わらずに学校外へとつながっていくことに、学びの広がりややりがいを感じた結果が、自己学習力の向上につながっていったように思われる。

2-3 外部への説明責任に向けた評価の実践

(1) 単元における総括的評価結果

本単元における観点別の総括的評価は「関心・意欲・態度」については、学習活動3-②③の評価結果の総和で、「思考・判断」については、学習活動2、3-⑤の総和で、「技能・表現」については、学習活動1-①②、3-①の総和で、「知識・理解」については、学習活動3-④で行うことにした。

①「関心・意欲・態度」について

観 点 \ 評価基準	A (3)	B (2)	C (1)	合 計
関心・意欲・態度① (学習活動3-②)	101人	32人	2人	135人
関心・意欲・態度② (学習活動3-③)	121人	12人	2人	135人
計	222人	44人	4人	270人

総計すれば、評価Aが270人中222人、評価Bが44人であり、合計266人(99%)が目標を達成したことになる。評価規準である「地域を良く変えたいという意識をもつことができる」とともに「自分から進んで、意欲的に活動に取り組むことができた」と考えられ、十分学習効果が上げられたと判断できる。

②「思考・判断」について

観 点 \ 評価基準	A (3)	B (2)	C (1)	合 計
思考・判断① (学習活動2)	121人	14人	0人	135人
思考・判断② (学習活動3-⑤)	99人	35人	1人	135人
計	220人	49人	1人	270人

総計すれば、評価Aが270人中220人、評価Bが49人であり、合計269人(99%)が目標を達成したことになる。評価規準である「友達のよいところ、学ぶところを進んで見つけることができる」とともに「今までの自分と関連させて地域の中での自分のあり方を考えることができた」と考えられ、十分に満足できる結果であるといえよう。

③「技能・表現」について

観 点 \ 評価基準	A (3)	B (2)	C (1)	合 計
技能・表現① (学習活動1-①)	79人	55人	1人	135人
技能・表現① (学習活動1-②)	63人	49人	23人	135人
技能・表現② (学習活動3-①)	110人	24人	1人	135人
計	252人	128人	25人	405人

総計すれば、評価Aが405人中252人、評価Bが128人であり、合計380人(94%)が目標を達成したことになる。評価規準である「今までの学習の足跡をわかりやすく整理して表現することができる」とともに「グラフを正しく読み取ることができた」と考えられ、学習効果が上げられたと判断できる。

④「知識・理解」について

観 点 \ 評価基準	A (3)	B (2)	C (1)	合 計
知識・理解① (学習活動 3-④)	100人	35人	0人	135人

評価Aが135人中、100人、評価Bが35人であり、合計135人中135人(100%)で全員が目標を達成したことになる。評価規準である「地域の諸課題について理解を深めることができる」と考えられ、学習効果が十分に上げられたと判断する。

(2) 単元における個人内評価結果

生徒2名を事例にしながら、個人内評価結果の特質について検討することにする。そのため、まず2人の生徒の<個人評価結果表>を示すと、次のようである。

<個人評価結果表>

生徒 観 点 \ 学習活動		1	1	2	3	3	3	3	3	評定
		①	②		①	②	③	④	⑤	
生徒A	関心・意欲・態度					3	3			A
	思考・判断			3					3	A
	技能・表現	2	2		3					B
	知識・理解							2		B
生徒B	関心・意欲・態度					3	3			A
	思考・判断			3					3	A
	技能・表現	2	3		3					A
	知識・理解							3		A

注：評定は、総括的評価結果の基づき、Aは80%以上相当、Bは60%~79%相当、Cは59%以下相当の達成状況を示している。

① 観点間経時的評価

生徒Aは、学習活動1、2においては、思考・判断は3、技能・表現は2という構造的な発達特質がみられるが、学習活動3になると、思考・判断は3を維持し、技能・表現は3へと上昇し、関心・意欲・態度は3、知識・理解は2という構造的な発達特質を示すようになってきている。評定はA・A・B・Bであった。

生徒Bは、学習活動1、2においては、思考・判断、技能・表現ともほぼ3という高い水準の構造的な発達特質を示し、学習活動3においては、4つの観点ともに3という構造的な発達特質を示している。評定は、4つの観点ともにAであった。

生徒Aも生徒Bも、学習活動2のあたりから評価結果がよくなってきており、その後高いレベルを維持している。これは、本単元での学習活動2が、お互いの自然教室の思い出アルバムを評価しあう品評会であったため、生徒の興味関心も高く、高い意欲も持って学習活動に参加しやすかったのではないかと考える。そして、その後の学習活動において、学習意欲や論理的な思考力、表現力の高まりを見せることにつながったのではないかとと思われる。

② 観点内経時的評価

生徒Aは、関心・意欲・態度、思考・判断ともに、3→3というように、高い水準の発達を維持したまま推移している。評定も、ともにAであった。また、技能・表現は、2→2→3というように、最初のうちは2であるがやがて3へと上昇し、その高い水準の発達のまま学習を終了している。評定はBであった。知識・理解は2で、評定もBであった。

生徒Bは、関心・意欲・態度、思考・判断ともに、3→3という高い水準の発達を維持しながら推移しており、評定も、ともにAであった。また、技能・表現は、2→3→3というように、2から3へと上昇し、3の高い水準の発達のまま学習を終了している。評定もAであった。知識・理解も3で、評定もAであった。